

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道34号 <small>かんざきさが</small> 神崎佐賀拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局	
起終点 自：佐賀県神崎市神崎町本告牟田 <small>かんざきしんざきまちもとあきむた</small> 至：佐賀県佐賀市兵庫町大字洲 <small>さがしひょうごまちおおあざふち</small>	延長 5.2km		
事業概要 神崎佐賀拡幅は、佐賀市東部や神崎市における国道34号の交通混雑の緩和や交通安全性の向上等を目的とした事業である。			
H4年度事業化	H3年度都市計画決定 (H一年度変更)	H7年度用地着手	
H12年度工事着手			
全体事業費	約153億円	事業進捗率	
		約70%	
		供用済延長	
		2.9km	
計画交通量 23,100～35,300台/日			
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 4.0	総費用 (残事業//事業全体) 37/180億円 (事業費：31/163億円 維持管理費：5.4/16億円)	総便益 (残事業//事業全体) 146/295億円 (走行時間短縮便益：134/269億円 走行経費減少便益：8.6/14億円 交通事故減少便益：4.0/12億円)
			基準年 平成25年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.5～1.8 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.6～1.7 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.5～1.8 (事業期間±20%)			
【残事業】交通量：B/C=3.5～4.5 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=3.7～4.4 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=3.3～4.5 (事業期間±20%)			
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・事業区間における渋滞の緩和 ・事業区間における旅行速度の向上 ②交通安全性の向上 ・事業区間における交通死傷事故発生件数の減少 ③救急医療活動の支援 ・第二次・第三次救急医療施設への救急搬送の支援 ④沿道環境の改善 ・沿道の騒音レベルの改善 ⑤活力ある地域づくりの支援 ・広域的な交流の促進による地域活性化への寄与			
関係する地方公共団体等の意見 佐賀市をはじめとして構成される国道34号（神崎佐賀拡幅・江北バイパス）整備促進期成会（会長：佐賀市長）により早期整備の要望を受けている。（平成24年11月）			
県の意見 早期整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異議ありません。			
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿線地域の佐賀市、神崎市の人口は、前回評価以降同程度で推移しており、一世帯あたりの自動車保有台数は九州全体よりも高い。国道34号の交通量は増加傾向にあり、混雑度は約1.7である。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成24年度末の事業進捗率は約70%であり、そのうち用地進捗率は約40%となっている。			

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

- ・ 姉川橋区間 L=0.5km (2/4) : 平成27年度供用予定

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。